

科目名	専門演習Ⅲ Seminar III						
科目担当者	宮田 浩史 MIYATA Hiroshi						
単位数	4	配当年次	4 年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	専門演習Ⅱまでで学んだ民法の理解を踏まえて、卒業論文作成に向けて、総合的な法的思考能力をつけるトレーニングを行う予定です。基本的には、個別報告が中心となります。						
授業の到達目標	①民事法を中心としつつ、公法・刑事法の範囲も視野に入れて応用的素養の基礎をつくる。 ②各個人の興味のあるテーマについて、活発に議論し、ひいては、地域社会に対してどのような貢献ができるかという点からも考察を深め、実践できるようになる。 ③ノート PC を用いて双方向的なやりとりができる。						
授業計画・内容	1	イントロダクション			16	論文の進行状況の報告①	
	2	課題の検証①（卒業論文としてのテーマ設定）			17	論文の進行状況の報告②	
	3	課題の検証②（テーマと問題意識の関連性）			18	課題の検証③（修正の必要の有無を探る）	
	4	民法演習①（近時の判例と研究課題①）			19	課題の検証④（修正後の確認）	
	5	民法演習②（近時の判例と研究課題②）			20	個別報告⑤	
	6	個別報告①			21	個別報告⑥	
	7	個別報告②			22	個別報告⑦	
	8	個別報告③			23	個別報告⑧	
	9	報告を踏まえての見直しと新たな素材探究①			24	卒論実践検討修正①	
	10	報告を踏まえての見直しと新たな素材研究②			25	卒論実践検討修正②	
	11	個別報告④			26	卒論実践検討修正③	
	12	裁判傍聴①			27	卒論発表①	
	13	個別報告⑤			28	卒論発表②	
	14	卒業論文の論題の確認と検証①			29	卒論発表③	
	15	卒業論文の論題の確認と検証②			30	総合	
授業外学修 (事前学修)	適宜指示します（毎週合計 2 時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	適宜指示します（毎週合計 2 時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法 出席し、積極的に授業に参加することが第一です。 ①提出物及び個別報告 ②授業における発表及び当てられたときの発言 ※提出物及び個別報告は、提出（報告）条件を満たしていれば、50%は無条件で与え、残りの 20%は、問題意識が明確であること、分析のアプローチが説得的であること等で評価				評価比率 ①70% ②30%		到達目標との対応 ①②③ ①②③
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書							
参考文献							
その他	ノート PC を授業時に持参すること。						